

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	池坊短期大学
設置者名	池坊学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	文化芸術学科（2年次） 環境文化学科（1年次） いけばな・花デザインコース	夜・通信			7	7	7	
	文化芸術学科（2年次） 環境文化学科（1年次） ブライダルプランナーコース	夜・通信			8	8	7	
	文化芸術学科（2年次） 環境文化学科（1年次） 医療クラークコース	夜・通信			8	8	7	
	環境文化学科 製菓クリエイトコース	夜・通信			9	9	7	
	環境文化学科 トータルビューティーコース	夜・通信			8	8	7	
	環境文化学科 国際経営情報コース	夜・通信			8	8	7	
	幼児保育学科	夜・通信			9	9	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「シラバス（講義概要）」記載項目としてホームページに公開 https://ikenobo-c-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx 一覧表もホームページに公開 https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoikujoyoho_2024_05.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	池坊短期大学
設置者名	池坊学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ： https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/yakuin2024.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2022/5/31 ～2025/5/30	大学運営を行うにあたって、学生活動、教育活動、研究活動（産官学連携を含む）、また教職員の大学行政活動のそれぞれのステージにおいて弁護士の専門的見地から正しい活動になるようアドバイスを頂く。
非常勤	宗教法人 税理士	2022/5/31 ～2025/5/30	大学運営とそのため諸課題を解決していくにあたって経営の面から専門的なアドバイスを頂く。
非常勤	経営者	2022/5/31 ～2025/5/30	大学運営に対して経営者として培った視点からアドバイスを頂く。
非常勤	大学教授	2022/7/28 ～2025/7/27	同府内の私立大学で学長を務められた実績を基に、大学運営に必要な専門的な方策をアドバイスして頂く。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	池坊短期大学
設置者名	池坊学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)は、毎年11月頃に全授業科目について、授業を担当する教員に対し作成を依頼する。その作成は、専任・非常勤を問わず全教員にID・パスワードを付与し、WEB上から入力できるシステムを利用している。作成にあたっては、入力方法や注意事項等のマニュアルを予め配付し、授業の方法および内容、到達目標、成績評価の方法や基準といった授業計画における重要事項に過不足や漏れが無いよう徹底している。 提出された授業計画(シラバス)は、まず教学部職員が形式的な観点から、その後、学科長をはじめとする各専門分野の専任教員が教育指導的な観点から内容を確認し、必要に応じて授業担当教員に追加や修正を依頼する体制としている。在学生の新年度履修登録が3月末に始まることから、3月中旬頃に「シラバス(講義概要)」を完成し、本学ホームページで公開できるよう準備を行う。	
授業計画書の公表方法	「シラバス(講義概要)」をホームページに公開 https://ikenobo-c-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 単位授与は、各学期はじめに履修登録した科目について、授業に出席し、かつ指定された予習・復習をすることを前提に、授業担当教員が予め授業計画(シラバス)で周知した成績評価方法により行う。その評価方法は、単位認定試験(筆記、レポート、実技等)、平常点(授業への取り組み状況、小テスト、論文・レポート・制作作品の提出等)による。授業に出席していることが基本となるため、原則として授業回数数の2/3以上の出席がない場合は、受験資格を失い、成績評価の対象とはならない。成績評価は以下のとおり、S、A、B、C、Fの5段階で行われ、S、A、B、Cが合格、Fが不合格となる。 ・S(秀:90~100点) GP4.0 ・C(可:60~69点) GP1.0 ・A(優:80~89点) GP3.0 ・F(不可:59点以下) GP0 ・B(良:70~79点) GP2.0	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では、学生の学修意欲を向上させ、適切な修学指導を行うため、以下の方法で成績評価をグレード・ポイント(GP)に置き換えた平均を数値化(GPA)している。</p> <p>・GPAの算出方法 $\frac{(\text{履修登録した各授業科目の単位数} \times \text{各授業科目のGP}) \text{の合計}}{\text{履修登録した各授業科目の単位数}}$</p> <p>GPAによる成績評価は、予め学生に周知・説明した上で、各学期末の成績通知書に記載している。GPAは、履修登録した全科目から算出するため、学修意欲の高い学生に不利益とならないよう、「履修登録変更期間」を設け、また資格取得・入学前の既修得・単位互換による単位は算出の対象外とする等の配慮を行っている。また、成績の分布状況を教員が把握することで、学科やコース全体の学修状況を確認するとともに、適切な成績評価がなされているかを判断する材料としている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>「学生生活のしおり」の冊子に掲載して学生・教職員に配付し、ホームページにも公開 https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoiku_jyoho_2024_06.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学位授与方針としてのディプロマ・ポリシーは、全学的にはもちろん、学科・コース単位でも設定し、学生が卒業に至るまでの資質・能力の目標を明確に定め、公表している。全学ディプロマ・ポリシーは以下のとおりである。</p> <p>①日常の人間活動を形成する「生命」、「生活」、「文化」および「環境」について多面的に理解できる。</p> <p>②文化的営為と精神性について、論理的に思考し、自ら設定した汎用的課題に対して、修得した専門的知識と技能を活かすための考察ができる。</p> <p>③「自然」、「人」、「事象」等に対して、自己との関係性を深く洞察し、役割を自覚し、社会を構成する一員としての高い倫理観と良好なコミュニケーションによって自律、協調して主体的、かつ連携的に行動する創造的能力と実践的能力を身に付けることができる。</p> <p>本学は就職に直結する専門分野の学修を中心とすることから、学科・コース単位のポリシーは、さらに学生が理解しやすい3つの短文で構成し、科目ごとに達成目標として設定するとともに、それを表やカリキュラムマップで示している。</p> <p>また、短期大学の卒業要件としての単位数は62単位であるが、専攻する分野の免許・資格を得るための単位取得も併せて学生に指導し、本学での達成目標としている。最終的な卒業判定については、教学部で管理する成績・単位取得状況をもとに、教授会での審議を経て、学長が認定することを学則に定めている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>「学生生活のしおり」の冊子に掲載して学生・教職員に配付し、ホームページにも公開 https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoiku_jyoho_2024_06.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	池坊短期大学
設置者名	池坊学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/04_taisyaku2023.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/01_shikin2023.pdf
財産目録	https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/05_zaisanmokuroku2023.pdf
事業報告書	https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/08_jigyohoukoku2023.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/06_kanjikannsa2023.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書)	対象年度:2024(令和6)年度
公表方法:ホームページ https://ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/04/2024jigyoukeikaku.pdf	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページ https://ikenobo-c.ac.jp/wp-content/themes/ikenobo/tandai/pdf/2024/jikotenken.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページ https://ikenobo-c.ac.jp/wp-content/themes/ikenobo/tandai/pdf/jaca_2018.pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文化芸術学科・環境文化学科・幼児保育学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページに公開） https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoikujyoho_2024_01.pdf
（概要） 本学は、華道を基軸とし、長い歴史と文化の視座をもって「日本文化の哲理を理解し美的情操を身につけた人材を育成する」ことを目的に、「和と美」を建学の精神としている。 「和と美」とは、調和あるものは美しく現れ、美しさは調和的であるということの意味する。人間は、自然に生まれ、自然とともにありながら、また自然を作り変える文化的営為（対話）なしに生きることのない存在である。その文化的営為と精神性が、関わるものすべてにおいて、いかに調和的でありうるのか。「いけばな」は、この問いに、日本文化固有の繊細さと奥深さをもって応えてきた。すなわち、手折られる花にあらゆるいのちへの祈りを込めて「いける」心と行為は、自然のいのちを文化のいのちとして新たに造形してゆくことである。それは人間がその生命を生き、生活、環境、文化を通して形成されるとともに、また、生活、環境、文化を構築していく姿勢そのものである。 本学が建学の精神に据えた、この「いけばな」に基づく日本文化固有の調和的・美的精神世界、「和と美」は、多元的かつ多様なものの共存・共生、より大きく深い対話、協調が求められる現代の日本社会、国際社会において、未来の創造へ寄与し貢献する根源的な価値である。日本文化固有の歴史と伝統を護りながら、同時にこの根源的な価値の普遍性を体現し、啓発しうる人材を育成する。 池坊短期大学は、教育理念のもと、その教育課程において学則に基づき定める科目を履修し、所定の単位を修得するとともに以下の要件を備えた学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページに公開） https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoikujyoho_2024_06.pdf
（概要） 〔環境文化学科〕 環境文化学科では、環境を自然、社会、人文などにわたるものと捉え、くらしを取り巻く環境に現れる美のあり方を探求し、それを踏まえて新しい生活文化の創造に資する能力の開発を目的とする。これに応じて、現代の様々な環境に関わる基礎的な専門知識と、自らの環境を生み出す高度な技術の修得によって、自己を取り巻くすべてのものと調和し、そこに様々な美を見出し、作り上げる力をもって、社会に貢献できる人材を育成する。 〔幼児保育学科〕 幼児保育学科では、「和と美」は、人間活動の本質である「対話（コミュニケーション）、共生」の精神性を包含すると捉え、「子どもの命を守る」ことを実践できる人材の養成を目的とする。すなわち、対象を知り、また自らを知ることで相互の差異を認め合い、支え高め合うことでさらなる和と美を生み出すことができる。この精神を基軸に、伝統文化の創造的伝承、人材形成の基盤の確立を援助・指導、さらには家庭・地域との連携を図ることのできる、時代が要請する保育および幼児教育の専門職を養成する。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページに公開） https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoikujyoho_2024_05.pdf</p>
<p>（概要） [環境文化学科] 環境文化学科では、建学の精神である「和と美」を理解し、コースごとの教育目標を達成するために、教科課程を「専門教育科目」で構成している。「専門教育科目」は各コースの専門性に応じて体系的に学び、生活文化を成り立たせる「環境」を理解、創造しうる知識と技能の基礎から応用までを修得するよう設置している。また、高度な知識と技術を裏付けする資格取得ができるようにも構成している。これによりディプロマポリシーで明記した能力を修得すべく、コースごとにカリキュラムを編成する。</p> <p>[幼児保育学科] 幼児保育学科では、乳幼児期が人間の精神性の発達・豊かなこころの醸成課程において最も重要な時期と捉え、保育や幼児教育の現場における乳幼児同士の「対話・共生」を最も大切なものと意識できるよう、励ましや見守りを通じてコミュニティづくりを支えることができる専門職を養成する。そのため、具体的かつ実践的な、現場思考と理論的思考の重要性、意義の理解を結びつけながら総合的に学修できるようなカリキュラムを編成し展開する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページに公開） https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoikujyoho_2024_04.pdf</p>
<p>（概要） [環境文化学科] 環境文化学科では、建学の精神である「和と美」を理解し、本学科のくらしを取り巻く「生活環境」に関わる基礎的な専門知識や技能等を体得するための努力を惜しまない人物、また高度な知識と技術を裏付けする資格取得をめざし、自らの将来像を明確に考えることができる高い志を持った人物を求める。</p> <p>[幼児保育学科] 幼児保育学科では、建学の精神である「和と美」の精神性の根源となる命の重みを理解し、かつ、日本の未来を担うこどもたちに生きる力として伝え育てる意欲のある人物、また、豊かな人間性と養護・教育に関わる深い愛情と専門性を備えるための努力を惜しまない、社会貢献意欲の高い志を持った人物を求める。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：ホームページに公開 https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoikujyoho_2024_02.pdf</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
文化芸術学科	—	0人	1人	0人	0人	0人	1人
環境文化学科	—	9人	1人	3人	0人	0人	13人
幼児保育学科	—	3人	2人	1人	0人	0人	6人

b. 教員数（兼務者）		
学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	76人	76人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：ホームページに公開 https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoikujyoho_2024_03_01.pdf https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/05/kyoikujyoho_2024_03_02.pdf https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoikujyoho_2024_03_03.pdf	
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）		
教員で構成する「FD委員会」を活動の母体として、授業評価アンケート、授業見学を実施し、それらの結果を教員にフィードバックしている。また、教育の質向上を目的とした学内研修会の開催や学外研修への参加促進を行っている。		

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文化芸術学科	0人	0人	0%	0人	3人	- %	0人	0人
環境文化学科	100人	96人	96%	300人	181人	60%	0人	0人
幼児保育学科	50人	16人	32%	100人	55人	55%	0人	0人
合計	150人	112人	75%	400人	239人	60%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文化芸術学科	46人 (100%)	1人 (2.2%)	34人 (73.9%)	11人 (23.9%)
環境文化学科	80人 (100%)	1人 (1.3%)	52人 (65.0%)	27人 (33.7%)
幼児保育学科	50人 (100%)	0人 (0%)	34人 (68.0%)	16人 (32.0%)
合計	176人 (100%)	2人 (1.1%)	120人 (68.2%)	54人 (30.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【文化芸術学科】				
【いけばな・花デザインコース】				
業界／花、フラワー、伝統文化				
就職先／池坊華道会、くろちく、竹中庭園緑化、ちきりやガーデン、鶴屋鶴寿庵、テイク アンドギヴ・ニーズ、寺子屋、パークコーポレーション、日比谷花壇、美濃吉、等				
【ブライダルプランナーコース】				

<p>業界／ブライダル、ホテル 就職先／アイケイケイ、ウエスティン都ホテル京都、エスクリ、京都ホテル、京都東急ホテル、スタイルズ、スタジオアリス、ツツミ、テイクアンドギヴ・ニーズ、ノバレーゼ、ホテルモントレ、日比谷花壇、マリアージュ彦根、ミリアルリゾートホテルズ、ロイヤルホテル等</p> <p>【医療クラークコース】 業界／医療、病院 就職先／宇治徳洲会病院、近江八幡市立総合医療センター、大阪赤十字病院、京都市立病院、京都微生物研究所、京都第一赤十字院、甲南病院、済生会茨木病院、吹田徳洲会病院、蘇生会総合病院、武田病院、みどりヶ丘病院、野洲病院、洛和会音羽病院、等</p> <p>【環境文化学科】 【製菓クリエイトコース】 業界／製菓・製パン 就職先／たねや、ロマンライフ、ユーハイム、エーデルワイス、阿闍梨餅本舗、老松、笹屋伊織、満月、重光、京都ホテル、ウエスティン都ホテル京都、エスコヤマ、キャパトルイシイ、ハトヤ観光グループ、パレット、プチプランス、等</p> <p>【トータルビューティーコース】 業界／美容、アパレル 就職先／エキップ、イプサ、オルビス、花王カスタマーマーケティング、カネボウ化粧品、コーセー化粧品、コム・デ・ギャルソン、資生堂ジャパン、スタジオアリス、P&Gジャパン、マリークアントコスメチックス、DHC、ELGC、ピアス、日本ロレアル、等</p> <p>【国際経営情報コース】 業界／観光、販売 就職先／ロイヤルホテル、ジェムケリーグループ、プレサンス住販、等</p> <p>【幼児保育学科】 業界／保育・幼児教育 就職先／池坊保育園、ヴォーリス学園、カナリヤ保育園、亀岡保育園、成安幼稚園、東山保育園、ひかり保育園、るんぴにー保育園、あかね幼稚園、永観堂幼稚園、光華幼稚園、同志社幼稚園、なるみ幼稚園、たかつかさ児童館、南丹市、八幡市、辰野町、等</p> <p>(備考)</p>
--

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
文化芸術学科	53人 (100%)	46人 (87%)	4人 (8%)	3人 (5%)	0人 (0%)
環境文化学科	95人 (100%)	79人 (83%)	2人 (2%)	14人 (15%)	0人 (0%)
幼児保育学科	50人 (100%)	47人 (94%)	0人 (0%)	3人 (6%)	0人 (0%)
合計	198人 (100%)	172人 (87%)	6人 (3%)	20人 (10%)	0人 (0%)

(備考) AO入試による入学者数が増えていることで、志望のミスマッチは減っているが、最近は入学以前の心身の不調を理由とする退学者が多い。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画（シラバス）は、全授業科目について、授業を担当する教員に対し作成を依頼し、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準といった重要事項を公表している。提出された授業計画（シラバス）は、まず教学部職員が形式的な観点から、各専門分野の専任教員が教育指導的な観点から内容を確認し、必要に応じて授業担当教員が修正する。3月中旬頃に「シラバス（講義概要）」を完成させ、本学ホームページで公開できるように準備を行う。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>単位授与は、各学期のはじめに履修登録した科目について、授業に出席し、かつ指定された予習・復習を行うことを前提に、授業担当教員が予め授業計画（シラバス）で周知した成績評価方法により行う。短期大学の卒業要件としての単位数は62単位であるが、専攻する分野の免許・資格を得るための単位取得も併せて学生に指導し、本学での達成目標としている。最終的な卒業判定は、教学部で管理する成績・単位取得状況をもとに、教授会での審議を経て、学長が認定することを学則に定めている。</p>
--

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	環境文化学科 いけばな・花デザインコース	62 単位	有	1 年次 48 単位 2 年次 56 単位
	環境文化学科 プライダルプランナーコース	62 単位	有	1 年次 48 単位 2 年次 56 単位
	環境文化学科 医療クラークコース	62 単位	有	1 年次 48 単位 2 年次 56 単位
	環境文化学科 製菓クリエイトコース	62 単位	有	1 年次 56 単位 2 年次 56 単位
	環境文化学科 トータルビューティーコース	62 単位	有	1 年次 48 単位 2 年次 56 単位
	環境文化学科 国際経営情報コース	62 単位	有	1 年次 48 単位 2 年次 56 単位
	幼児保育学科	62 単位	有	設けていない
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：ホームページに公開 https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoiku_jyoho_2024_06.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：ホームページに公開 https://www.ikenobo-c.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/kyoiku_jyoho_2024_04.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：ホームページに公開 https://ikenobo-c.ac.jp/shisetsu/</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

1年次生

学部名	学科名	授業料(年間)	入学金	その他教育充実費	その他華道実習費	その他花材費	その他茶道実習費	備考(任意記載事項)
	環境文化学科	808,000円	240,000円	280,000円	16,000円	64,000円	20,000円	
	幼児保育学科	808,000円	240,000円	280,000円	16,000円	64,000円	—円	

2年次生

学部名	学科名	授業料(年間)	入学金	その他教育充実費	その他華道実習費	その他花材費	その他茶道実習費	備考(任意記載事項)
	環境文化学科	808,000円	—円	280,000円	8,000円	32,000円	—円	
	幼児保育学科	808,000円	—円	280,000円	—円	—円	—円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) まず、高等学校から大学の学びへスムーズに移行できるよう入学前教育を実施している。学期はじめのオリエンテーションで履修に関するガイダンスを実施し、全体的な説明だけでなく、クラス担任による個別の助言や指導を行っている。授業に関する質問には、全科目担当者のオフィスアワーを設定しており、専任教員は個人研究室に待機し質問に答えるなど、学修へのサポート体制を整えている。また、初年次教育として、建学の精神を学ぶ科目やキャリア指導を含むゼミ形式の科目を設置している。学力・人物ともに優秀な学生を表彰する奨励制度、本学独自の奨学金制度を設けており、経済面からの修学支援も行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 卒業後進路指導に関する専門部署として「キャリア支援部」があり、担任教員と連携したきめ細かいサポートを実施している。1年次後期より本格的に就職活動対策講座を開講し、多岐にわたる就職希望先企業の採用試験への準備を提供している。また、企業担当者を誘致しての学内企業説明会も各コース専門分野を中心に開催し、学生の意識向上を促している。学生と教職員との個別面談も随時実施しており、関係性作りをした上での個別指導を支援方針として徹底している。学生サービスの一環としてオンライン説明会・面接に対応するための機材や場所の提供も行っている。求人情報は、基本的には本学と提携したクラウドサービスを経由して企業から提供されており、主要な求人情報については連絡アプリを使用した学生へのリアルタイム情報発信も行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 学校保健法に基づく健康診断を全学生対象に実施し、再検査が必要な学生に対しては保健室から指導を行い、確実な受診を促している。健康上の不安や持病がある場合、まず保健室職員(看護師)や担任教員に相談するよう周知している。入学後早期に担任職

員による個人面談を全学生に行い、学生生活の不安や悩み等を早い段階からヒアリングすることで、学生のサポートに活用している。また、精神的・身体的な悩みを抱える学生については、学生サポートルーム（週2日開室）のカウンセラーによる相談の機会も設けている。

学生本人の希望や必要性があれば「配慮願」を提出してもらい、教職員による「学生支援センター」が情報を集約・検討し、双方の合意形成のもと配慮できるよう努めている。さらにその状況によっては、保護者や担任教員と連携し、医療機関や支援団体等への引継ぎも行っている。このように学生を多面的に支えることができるような協力体制の構築に取り組んでいる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページに公開

<https://ikenobo-c.ac.jp/tandai/application/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F226310107750
学校名 (〇〇大学 等)	池坊短期大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人池坊学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		77人	66人	79人
内訳	第Ⅰ区分	55人	49人	
	第Ⅱ区分	15人	14人	
	第Ⅲ区分	－	－	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				－
合計 (年間)				81人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	—	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	—
「警告」の区分に連続して該当	人	—	—
計	人	—	11人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限り。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	19人	24人
計	人	21人	25人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。